

Alexander Paley

アレクサンダー・パレイ



アレクサンダー・パレイは、コンチェルトやピアノソロ曲集など、非常に幅広いレパートリーを持ち、華やかな技巧的腕前と、曲に対する彼独特の深い解釈で定評を博す。

ワシントン・ポストは、1991年ワシントン・ナショナル交響楽団とのパレイのデビューを「完璧な演奏」と評し、それ以降、ロサンジェルス・フィルハーモニック、ボストン・ポップス・オーケストラ、アスペン祝祭管弦楽団、ミネソタ管弦楽団やセントルイス、サンディエゴ、ユタ、コロラド、ミルウォーキー、シアトル、シラキュース等の交響楽団との協演でも、同様の賞賛を得ている。彼は、アメリカン・コンポーザーズ・オーケストラの1996-7年シーズンで、シェイラ・シルバーの協奏曲を初演し、カーネギーホールデビュー果たす。

ニューヨーク・タイムズは、この演奏を「ピアニストは、何かに取りつかれたように演奏した」と評した。

サンフランシスコ、ロサンゼルス、リッチモンド、アトランタ、ワシントンD.C.のケネディセンター、シカゴのアライド・アーツ・シリーズ、シアトル・インターナショナル・フェスティバルなど、アメリカ各地でリサイタルを開催。1999-2000年シリーズで、バッハのゴルトベルク変奏曲とフランス組曲No.5を主にしたプログラムをドイツ大使館の新しいブリュッナーピアノの為に、ダンバートン・コンサートシリーズで演奏し、現在では、毎年リサイタルを開催している。このリサイタルについてのワシントン・ポストの批評

は、次のように始まる：「たまにはあるが、しばしば起こることではない。リサイタルは、あまりにも爽快に幕間まで進み、前半で経験した最上級の芸術性とこれから聴く後半への大きな期待に溢れる豊かな幕間となった」。この初めてのリサイタルを機に、毎年、D.C.に戻り、2004年にはモーツァルトの全ソナタを、2011年には、「オール・リスト・コンサート」を演奏。2011年の演奏は、録音され、WETAの「フロント・ロウ・ワシントン」にて放送された。

モルドバのキシナウに生まれる。6歳よりピアノを始め、13歳で初めてリサイタルを開催する。16歳の時に、モルドバ・ナショナル・ミュージック・コンペティションで優勝。その後、モスクワ音楽院で、ベラ・ダヴィドヴィチ、ヴェラ・ゴルノスタエヴァに師事し、1981年に卒業する。ライプツィヒ国際バッハコンクール第1位(1984年)、ベーゼンドルファー賞(1986年)、第1回パンチョ・ヴラディゲロフ国際コンクールでグランプリ(ブルガリア1986年)、ヤング・アーティスト・デビューでグランプリ(ニューヨーク1988年)、アレックス・ド・フリース(ベルギー1990年)、ヴィクトワール・ドゥ・ラ・ミュージック・クラシック(フランス2006年)にて賞を得る。

1988年にアメリカに移住するまで、パレイ氏はリサイタル奏者、ソリストとして、かつてのソビエト連邦や東欧で頻繁に演奏し、ウラディーミル・スピヴァコフ率いる、モスクワ・ヴィルトゥオーゾの数多くのツアーにて、ソリストを務めた。現在も、ヨーロッパ、中国、南アメリカ等の国々で演奏し、フランス国立管弦楽団、MDR 交響楽団、フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団、リトアニア国立交響楽団、ラトビア国立交響楽団、パリ室内管弦楽団、モントリオール交響楽団等と演奏し、ジョン・ミュンフン、イヴァン・フィッシャー、マリン・オールソップ、ズデニェク・マーツァル、ローレンス・フォスター、ペーター・ルジツカ、ジャン＝クロード・カサドシュ等の著名な指揮者と協演。

ラジオ・フランス、シャンゼリゼ劇場、サル・プレイエル、サル・ガヴォー(パリ)、Les Grands Interprètes シリーズ(リヨン)、リール・ピアノ・フェスティバル、ブザンソン歌劇場やフランのモンペリエ、ナンシー、メス、ブールジュ、アミアン等の都市、ゲヴァントハウス、コンセルトヘボウ(アムステルダム)、ライスハレ(ハンブルク)、北京中山公園音楽堂(中国)、リンツ、ウィーンやドイツ各地でリサイタルを行っている。

パレイは、ベラ・ダヴィドヴィチやムスティスラフ・ロストロポーヴィチ、ウラディーミル・スピヴァコフ等の著名な芸術家、フェルメール弦楽四重奏団、イザイ四重奏団、ファイン・アーツ弦楽四重奏団、MDR 交響楽団やニューヨーク・フィルハーモニック、モンペリエ国立管弦楽団等の首席奏者と共演。

2011年にはフランスのノルマンディーにあるムーランダンデで開催のパレイ氏のフェスティバルが20周年を迎えた。このフェスティバルは、1週間にわたり、歌曲や室内楽のリサイタルが行われ、多くのフランスの音楽愛好家たちの音楽シーズンのハイライトとなっている。その模様はロシアテレビから一時間ドキュメンタリー番組として東欧圏ならびにイスラエルに放映された。1997年に、同フェスティバルの一環として、国立エヴルー劇場にて、ペルゴレーシの奥様女中とテレマンのピンピノーネを指揮し、指揮者デビューを果たす。それ以降、バッハの1台、2台、3台、4台ピアノのための協奏曲全曲、モーツァルトの1台、2台、3台ピアノのための協奏曲全曲、ベートーヴェンの全ピアノ協奏曲、パリ室内管弦楽団とのメンデルスゾーンピアノ協奏曲を指揮兼演奏した他、モルドバ国立歌劇場にてヴェルディの椿姫を指揮した。

パレイは、東欧のみならず西欧でも活躍、頻繁にソロ、コンチェルトを行う。1985年から1990年までウラジミール・スピワコフ率いるモスクワ芸術団のソリストとして活躍。1986年ボリショイ劇団オーケストラ、1989年モンテカルロオーケストラと協演。フランスの作曲家ジャン・ルイス・アゴベッツのピアノコンチェルトをストラスブルグフィルとパリのプレイエル社で世界初演デビュー。また、1998年からアメリカのヴァージニア州リッチモンドにて毎年フェスティバルを開催し、大胆なプログラム構成と卓越した演奏で批評家の絶賛を得ている。

パレイは、幅広い作品のレコーディングを多く行っており、録音には、バラキレフのピアノ作品全集 (E.S.S.A.Y) やスクリャービン、ウェーバーの作品集 (ナクソス)、ショパンやラフマニノフのチェロとピアノのソナタ (チェロ: アレクサンドル・ドミトリエフ)、リストのベートーヴェン大七重奏曲 (Musidisc)、ジョヴァンニ・ズガンバーティのピアノ協奏曲をモンペリエ国立管弦楽団と初演録音 (Actes Sud Musicales)、1994 年にロシア国立交響楽団とアントン・ルビンシュタインのピアノ協奏曲 No.2 と No.4、2003 年 G.リンケヴィチウス指揮でリトアニア国立交響楽団とシェイラ・シルバーのピアノ協奏曲 (ナクソス)、ストラスブール・フィルハーモニー管弦楽団とジャン＝ルイ・アゴベの作品集 (Timpani) などがある。また、プロコフィエフの「ロメオとジュリエット」からの 10 の小品、シンデレラ組曲、モーツァルト、ベートーヴェン、ブラームス、バルテル、ショパン、バッハのゴルトベルク変奏曲、バッハの平均律を CD シリーズとして、ブリュットナーレーベルにて録音。「アレクサンダー・パレイのブリュットナー夜会」と題した DVD、シュールベルトによるリストの編曲集 (ライブツイヒにてライブ演奏) も発売。最新発売には、チェリストのアレクサンドル・ドミトリエフとのエネスコ: チェロソナタとヴァイオリニストのアミラン・ガンツとのエネスコ: ヴァイオリンソナタ全集 (Label Saphir)、チャイコフスキー: グランドソナタト長調と四季全曲 (Label Aparté) がある。